

未来を開く

長井市立長井北中学校

No47 令和3年10月12日

平和な世界へ貢献誓う

令和3年度「長井市戦没者追悼式」が、10月10日(日)長井市民文化会館で開催された。「真の平和を目指して」と題して、3年生の金田沙弥さんが、南中学校の3年生菊地風香さんとともに、作文を朗読した。

「おばあちゃん、なんであの写真の人は兵隊さんの格好をしているの?」

祖母の家には、一つだけ軍服を着た遺影があります。

「戦争に行ったら死んじゃったんだよ。」

祖母は、小学生だった私に、その人が太平洋戦争に招集されて二十五歳で亡くなったことを教えてくださいました。その時の私は、戦争についての知識がなく、自分は平和な時代に生きていると思い込んでいました。ですから、「怖い。」「かわいそう。」という思いだけで終わっていました。



そんな私に、戦争について考えるきっかけを与えてくれた人がいます。それは、私の曾祖父です。曾祖父は四年前に亡くなるまで、私に戦争の恐ろしさを繰り返し繰り返し話してくれました。太平洋戦争の末期に召集された曾祖父は、毎日武器を持って訓練を行っていましたが、戦地に行く直前に終戦を迎えたのだそうです。しかし、一緒に訓練を受けていた人や同級生などの中には、戦地に赴いて命を落とした人もいます。そう。「戦争はおっかない。もう二度と起きてほしくない。」そう話していたのを、鮮明に覚えています。曾祖父は、認知症になってからも「戦争は止めた方がいい。」「戦争したら後悔する。」と何度も何度も繰り返して、戦争に対する曾祖父の怒りや悲しみがどれだけ大きいものだったのか痛いほど伝わってきました。(中略)

今年、平和の祭典オリンピックが日本で行われました。世界が真の平和を手にするためには、国と国が理解し合って仲良くすることに加え、戦争の愚かさ、戦争の恐ろしさをみんなが理解し、もう二度と戦争を繰り返さないという決意を共有することが必要だと思います。私自身、たった一つしかない「命」を大切に生きていきたいと思っています。

いつか胸を張って「この世界は平和だ。」と言える日が訪れることを願いながら……。

式典の冒頭に、長井市長様と長井市遺族会会長様から、「戦後76年、今の日本の平和と安全を考えると、長井市出身の834名を含む、多くの方々が戦禍の犠牲になられたことを忘れてはならない。我々は、世界の恒久平和と長井市の発展に貢献することを誓います。」とお話がありました。



学校では、各教科等で「平和に関する学習」を行っています。
 第3学年では、国語科で石垣りん(いしがき りん)さん作「挨拶一原爆の写真によせて」を学習しました。そこで、学習後の感想を紹介します。

| | |
|--|---|
| あ、 この焼けたたれた顔は 一九四五年八月五日 その時広島にいた人 二五万の焼けたたれのひこつ すでに此の世にないもの とはいえ 友よ 向きあった互いの顔を も一度見直そう 戦火の跡もとどめぬ すこやかな今日の顔 すがすがしい朝の顔 その顔の中に明日の表情を さがすとき わたしはりつせんとするのだ | 地球が原爆を数百個所持して 生と死のきわどい淵を歩くとき なぜそんなにも安らかに あなたは美しいのか しずかに耳を澄ませ 何かが近づいてきはしないか 見極めなければならぬものは目の 前に えり分けなければならぬものは 手の中にある 午前八時一五分は 毎朝やってくる 一九四五年八月六日の朝 一瞬にして死んだ二五万人の人は 今在る あなたの如く私の如く やすらかに美しく油断していた。 |
|--|---|

『作者は、戦争や原爆の恐ろしさや二度と起こしてほしくないということをお伝えしようとしたのだと思います。今、日本では戦争などは起きていませんが、世界中のどこかで戦争によって苦しみ、辛く悲しい思いをしている人がいて、その人の思いもこめられていると感じました。
 この詩の学習をとおして、「毎朝やってくる」との言葉から、当たり前にごさせていることに感謝すべきだと思いました。そして、戦争や原爆の事を忘れず未来につなげ、二度と起こすことがない平和な世界にするため、わたしもできることをしていきます。』
 (3年1組 孫田和奏さん)

心のとびら

創立40年
北中の軌跡
その5

長井北中校長北中
校歌
神保光太郎作詞
竹田一興作曲

一
山は呼ぶ 河は歌う
なつかしの花と緑よ
ああ きまじく あなたとわたくし
今日もここに学ぼう 学んで行こう
われら われら 山形長井
長井北中 輝く輝く
愛する母校

二
晴れ渡る ふるやかなの空
父と母 師の愛胸に
ああ きまじく あなたとわたくし
ちがふあわや磨う 磨く行こう
われら われら 山形長井
長井北中 輝く輝く
愛する母校

三
たくましく、こころをからだ
あわせた 未来を開く
ああ きまじく あなたとわたくし
誓いも堅く進もう 進んで行こう
われら われら 山形長井
長井北中 輝く輝く
愛する母校
湖田 敬三

「校歌の心」作詞者は語る一神保光太郎 氏— その3
 ※「長井北中の教育」より抜粋

三番の
 ♪「遅い心とからだ」♪これは、長井北中学校の教育目標そのものです。心も遅しく体も遅しく、これは人間の絶対の幸せにつながるものですね。そして幸せの未来を開いてゆくのです。

まとめますと、まず一番については、自然に恵まれた澄んだ空気と自然を歌い上げる、二番では父母と先生方の恩や愛を歌い上げ、三番では健全な精神と肉体を持って歌い上げているのです。そして、それぞれに付けられている「われらわれら～愛する母校」は、長井北中で学んだという誇りと、母校に対する愛、同じ北中に学んだという連帯感、そういうものに対しての、いわゆる「学校讃歌」の部分なのです。

将来皆さんがよいお父さんお母さんになった時、この校歌を是非聞かせてやってください。